



サンフランシスコでスマホを買い換える

執筆者

KDDI総研 特別研究員 高橋陽一

🕒 記事のポイント

サマリー

これまでサンフランシスコで2年間スマートフォン（以下、「スマホ」）を使ってきたが、契約期間の満了を機に買い換えることにした。前回のスマホ選びでは、事前に十分に情報を収集し慎重に検討を行い、当時としては最新で最良のスマホを選定したつもりだったが、実際に使ってみるととても満足できるものではなかった。使い勝手が悪く、ネットワークはカバレッジが限定的で、特に郊外ではデータがほとんど使えなかった。

この反省に立ち、今回は前回以上に慎重に検討し、「4G LTE回線で快適に使える最新スマホをなるべく安く購入する」との方針で、スマホ選びを行うこととした。各キャリアの料金も綿密に分析して比較した。検討するうちに、キャリア選定に決定的な影響を与える事情も生じた。果たして満足できる選択ができたのかどうか。その評価を下すにはもう少し様子を見る必要がある。

本稿ではこれまでサンフランシスコでスマホを使用してきた状況・感想や、今回スマホとキャリアを選定するに至った経緯などを記すことにより、米国のケータイ事情の一端を紹介する。

主な登場者 Sprint Verizon AT&T T-Mobile RadioShack Best Buy Apple

キーワード Nexus S 4G 4G LTE iPhone 5s/5c Galaxy S4

地域 米国

Title	Shopping Around in San Francisco for a Smartphone Upgrade
Author	TAKAHASHI, Yoichi Research Fellow, KDDI Research Institute
Abstract	<p>The author has been using a smartphone in San Francisco for two years and decided to upgrade it as the contract reached fulfillment. Despite previous efforts to select the best smartphone based on research and analysis, the decision made two years ago could best be considered a failure. Primary reasons for this unsatisfactory result were: limited coverage of the network, and especially poor performance for data applications in the suburbs. Overall the upgrade could not be considered a user-friendly experience.</p> <p>Looking back on the results of the previous upgrade effort, this time the author was determined to do more extensive research and analysis, with the objective of purchasing a latest model smartphone that can be highly usable on the 4G LTE network at the lowest possible price. However, in the course of the selection, there was a change of circumstances, which could decisively affect choice of mobile communications carrier. Whether or not the author finally made a satisfactory decision still remains to be seen.</p> <p>This paper introduces the author's experiences of selecting, purchasing and using a smartphone in San Francisco thus far, with a view to show one aspect of how people are coping with issues surrounding smartphones in the U.S.</p>
Keyplayers	Sprint Verizon AT&T T-Mobile RadioShack Best Buy Apple
Keywords	Nexus S 4G 4G LTE iPhone 5s/5c Galaxy S4
Region	U.S.

1 はじめに

今まで使っていたスマホ「Nexus S 4G」が、このたびSprintとの2年契約が満了となったので買い換えることにした。これはサンフランシスコに住み始めてまもなく購入したスマホだ[☞] (脚注)。あれからもう2年も経つのかと思うと感慨深い。このスマホを手放すことについてはまったく未練はない。というのも、このスマホとSprintのネットワークにはこれまでたびたび不便な思いを強いられてきたからだ。

どのキャリアを使っても不満を感じる人はいる。満足している人は騒がないが、不満がある人ほど声高に騒ぎ立てるものだ。ユーザーレビューなどを見ると米国ではどのキャリアもひどいサービスばかりのように思えてしまう。おそらく騒いでいるのはほんの一握りのユーザーであって、実態はそれほどひどくもないのだろうと考え、あまり心配せずに使い始めた。ところが実際に使ってみると思いの外ひどく、不満が高じて声高に騒ぎ立てたくなる気持ちがよくわかった。

そのうち契約期間の満了を今か今かと待ちわびる日々となった。T-Mobile US (以下、「T-Mobile」) が最近、端末早期買換オプション「JUMP!」(詳細は後述) の宣伝で、「2年は長過ぎる」と盛んに訴えているのが妙に共感できた。不運にもハズレの端末やサービスに当たってしまったら、確かに2年は長過ぎる。そうかといって頻繁に買換えを勧めるのもどうかと思う。2年は長過ぎると感じさせない製品やサービスを提供してもらいたいものだ。

本稿ではこれまでサンフランシスコで2年間スマホを使ってきた状況・感想や、今回スマホとキャリアを選定して購入に至った経緯などを記すことにより、米国のケータイ事情の一端を紹介できればと思う。

2 Nexus S 4Gの使い勝手

Nexus Sは2010年の暮れにT-Mobile版が登場したが、Sprint版のNexus S 4Gは2011年5月に発売された[☞] (参考)。当然ながら当時としては最先端の技術を盛り込んだ最新の4G対応スマホとして期待と注目を集めた。とりわけ初めての「ピュアグーグル」端末として、本体背面には「Samsung」のほかに「Google」のマークも刻まれ、当時は先駆的だったNFCも搭載し、Googleがモバイルウォレットサービス「Google Wallet」を開始した際には真っ先に使えるようになったスマホだ (図表1)。



[☞] (脚注) 別稿『サンフランシスコでスマホを選ぶ』(KDDI総研R&A誌) 参照
<http://www.kddi-ri.jp/pdf/KDDI-RA-201112-01-PRT.pdf>

[☞] (参考)

<http://www.engadget.com/2011/04/26/nexus-s-4g-launch-on-sprint-now-official-may-8th-for-200/>

ところがこのスマホにはいろいろと文句の付けどころがある。本体は無料で入手できたのであまり強いことは言えないが、まさに「安かろう、悪かろう」だ。まず、このスマホのディスプレイは直射日光にはひどく弱かった。天気のいい日に屋外で使うと画面が暗くてほとんど何も見えなくなった。もともと本体の色が真っ黒な上に画面まで真っ黒になるので、ただの黒い板と化してしまう。

【図表1】 Nexus S 4G



(出典) Engadget

また、スマホがスリープ状態のときに電話の着信があると、まずロックを解除するために画面上でスワイプする必要があるのだが、なぜかスワイプが機能せず、ロックがいつまでも解除できないことがたびたびあった。「何で電話に出ないの」と家族に叱られることもしばしば。

運良くロックが解除できても、電話に応答する前に「誰々（または何番）から電話が来ている、応答するには1番をダイヤルしなさい（アナウンスはその後も続くようだがいつもここで1番を押すためにスマホを耳から離してしまうので、その後どんなアナウンスが続いているのかは聞いたことがない）」との親切すぎる自動音声流れ、その都度画面にキーパッドを表示させて1番を押してからやっと応答できるという始末。キーパッドの表示に手間取り、時間がかかってその間に切られてしまうことも珍しくなかった。「電話に出るのが遅い！」と家族に叱られることもしばしば。

いちいちこんなやり方で電話に出るように設定した覚えはない。自動音声や1番を押すプロセスを飛ばして、着信があったらいきなり電話に出られるようにできないものかと設定画面を探したが、いくら探してもその変更ができるオプションがどこにも見当たらない。ネットで調べてもそれらしい解決策が出てこない。これで悩んでいる人は世の中にはいないのか。ちなみに妻も同じ機種を使っていたが、不思議なことに妻はこのプロセスを経ることなく、いきなり電話に出ることができるので、これで悩んではいない。

一度Sprintのショップに立ち寄り、スタッフにこの悩みを相談してみたが、スタッフもわからないと言う。サポートセンターに電話して相談するようにとアドバイスを受けたが、サポートの電話がなかなかつながらず、まあいいかと断念。我慢して面倒な操作で使い続けた。

さらに、これは端末の問題かネットワークの問題かは不明だが、着信があっても着信音が鳴らず、話中でもないのにいきなりボイスメールになってしまうことがたびたびあった。後で着信通知を見て着信があったことを知る。サイレントモードになっていたわけではない。たとえサイレントモードになっていたとしても、いきなりボイスメールにはならないはずだ。いつも必ずボイスメールになるのであればどこかでそのような設定になっているのだろうとも考えられるが、ボイスメールになることもあれば、ならないこともある。どういうときになるのか、決まったパターンはないようだった。3Gのカバレッジは問題のなかった自宅でもそのような現象が発生したりしなかったりという状態だったので、ネットワークのせいでもないような気がするが、真相は闇に包まれたままだ。

おまけに付属品も弱かった。USBケーブルのスマホにつなぐ部分のコネクタが、1年位で壊れてしまった。特に変な力を入れたわけでもないのに、プラスチック部分が割れてしまった。ジグソーパズルを完成させるように破片をつなぎ合わせて接着剤で固めた上、ビニールテープでぐるぐる巻きにして何とか最後まで持ちこたえた。

3 Sprintの使い勝手

当初Sprintに加入した時の契約内容は、音声はあまり使わないので最低限の分数付きのものにしたが、テキスト（SMS）とデータは無制限、テザリングのデータも無制限使い放題だった。それが契約後まもなく、いつのまにか（メールで何か案内が来ていたような気がするが、あまり真剣に読んでいなかった）テザリングに5GBの制限が付いていることが請求明細でわかった。完全無制限のはずだったのに。騙されたような気がした。

ただ、テザリングは普段はほとんど使わなかった。自宅にはWi-Fiがある。外出したときもダウンタウンであれば公衆Wi-Fiスポットが至るところにあるので、不自由はしなかった。たまに郊外に出たときや旅行先などで必要になり、いざテザリングを使おうとしたら電波の状態が悪くて使えなかったということがよくあった。そういうわけで幸か不幸かテザリングが5GBの制限に達したことは一度もなかった。

テザリング以外のデータは本当に無制限なので、いくら使っても心配する必要がないという安心感がSprintの唯一のメリットだった。ただ、これもテザリングと同様、普段はほとんど使わず、いざ使おうと思ったら使えなかったことが多いという状況だった。せっかくの無制限の特権をフルに使いこなすことができなかつたのが悔やまれる。

料金的には他のキャリアを使うよりも安く済んだかどうかは定かではない。家族でスマホ3台を使用し、音声1,500分を家族で分け合い、テキストとデータは無制限、

スマホ1台にテザリングを付けて、トータルで月210ドル。それに税金やサーチャージなどが上乗せされて、月々の支払金額は240ドル程度だった。

データをバンバン使いまくっていたとしたら割安だったのだろうが、上記のようにほとんど使っていなかった状態なので、他社のデータ上限付きのプランを上手に使った方が安かっただろうと思われる。ただし、他社を使っていたとしたらデータをもっと使っていたかもしれないので、これは何とも言えない。

Sprintのネットワークのカバレッジに関しては、自宅やダウンタウンでは3Gは特に問題はないように思われたが、4G (WiMAX) はONになったりOFFになったりという状態で、比較的OFFの方が多かったという印象だ。ただ上述のように郊外では3Gも4Gも弱かった。郊外こそカバレッジが必要とされるというのに、その大事な場面で使えなかったということがたびたびあった。

スマホの他にFreedomPop[®] (脚注) のポケットWi-Fiルータも使用していたが、これはClearwire/Sprintの4G (WiMAX) 回線のみを使うので、スマホが使えないときはこれも使えなかった。バックアップ用として使うためにはスマホとはキャリアを別にすべきだったと反省した。FreedomPopは月々500MBまでは無料で使えるのがメリットだが、逆にまったく使わないと1ドルの管理料が取られる。管理料がかかるのを避けるため、自宅にWi-FiがあるのにあえてこのポケットWi-Fiルータを使うという無意味なこともした。

こんな次第で、結局前回のスマホ選びは失敗だったと言ってもいい。その反省に立ち、次にスマホを買い換えるときはキャリア選択も含めて慎重に比較検討しよう決めていた。各キャリアの料金を綿密に分析し、スマホは「安かろう、悪かろう」にならないように気をつけ、4G LTEネットワークで快適に使える最新スマホをなるべく安く購入するという方針で臨むことにした。

4 各社の最新スマホ

Sprintからは契約期間が20か月を過ぎた2013年6月初め頃から、アップグレード(機種変更)が可能になったとの案内メールが届いていた。その時点では新型iPhoneの噂はあったがまだ正式発表されておらず、各社の最新機種はiPhone 5、Galaxy S4、Galaxy Note II、Nokia Lumia 1020 (7月に発表)、HTC One、BlackBerry Z10といったところ。本体価格は2年契約の場合でGalaxy Note IIが299.99ドル、Lumia 1020が249.99ドル、他は横並びで199.99ドルだった。

その当時、ショップでどのスマホがお勧めかと聞くと、だいたいGalaxy S4を勧められた。これはどのキャリアからも出ている。確かに性能的には当時出回っていたスマホの中では最高レベルだった。個人的には41メガピクセルカメラを搭載した



[®] (脚注) <https://www.freedompop.com>

Windows PhoneのLumia 1020も気になっていた。これはAT&Tだけが取り扱っていた。

すぐに決める必要はなかった。Sprintの契約がまだ4か月残っていた。Sprintのまま機種変更をするのはすぐにでもできるが、キャリア変更をするにはもう少ししばらく待たなければならない。そのうち新型iPhoneが出るだろうし、他のスマホも新機種が出たり値下がりがりしたりするだろうからと、しばらく様子を見ることにした。

8月1日にはMotorolaがMoto Xを発表した。これはGoogleがMotorolaを買収してから初めて出すスマホで、初の「純アメリカ製」スマホでもある。Webサイト「Moto Maker」で本体各部の色の組み合わせや容量や壁紙などを豊富なオプションから選んでカスタマイズできる。4キャリアすべてが販売しているが、「Moto Maker」が使えるのはAT&Tだけという不可解な対応が少し気になった。

9月10日には待望の新型iPhoneが発表された。指紋認証機能付きのiPhone 5sと本体カラーが5色の中から選べるiPhone 5cの2機種。9月20日に米4キャリアすべてが販売を開始した。中国を含む世界11か国での同時発売となり、発売後3日間で両機種合わせて900万台を販売するという記録的な人気振りを発揮した。

この時期にはまた、大型画面の「ファブレット」の新機種も続々と発表された。LGの最新機種G2は画面が5.2インチ、Sonyからは5インチのXperia Z1が登場、Galaxy Note IIの後継は5.7インチという大画面のGalaxy Note 3。それぞれがかなりの高性能や高機能を誇っているが、iPhone 5s/5cの人気にかき消されてあまり目立たないデビューとなった。

5 各社の料金プラン

Sprintのアップグレードが可能になった6月初めから契約が満了となった10月初め頃までの期間は、各キャリアの料金プランについてもさまざまな変更がなされたり、新たな仕組みが導入されたりと、非常に動きの激しい時期だった。綿密に分析して比較検討するとの方針に従い、各キャリアの料金情報も収集した。

5-1 Verizon Wireless

Verizon Wireless (以下、「Verizon」) はデータシェアプラン「Share Everything Plan」が基本だ。端末が1台しかない場合でもプリペイド以外ではこれを選ぶしかない。音声とSMSは無制限。データはアカウント毎に月々の上限を選び、これを同一アカウント内の端末最大10台でシェアできる。端末毎の回線アクセス料とアカウント毎のアカウントアクセス料の合計が月々の料金となる。6月時点のVerizonの料金プランは(図表2)のとおり。

【図表2】 VerizonのShare Everything Plan

端末毎の料金

端末の種類	月額回線アクセス料
スマートフォン	\$40
ベーシックフォン	\$30
Wi-Fiルータ、USBモデム等	\$20
タブレット	\$10

データ量に応じた料金（音声とSMSは無制限）

データ上限	月額アカウントアクセス料
1GB	\$50
2GB	\$60
4GB	\$70
6GB	\$80
8GB	\$90
10GB	\$100

（上限超過後は\$15/GB。テザリングは追加料金なしで利用できるが使ったデータ量は月々の許容量から差し引かれる。）

（VerizonのWebサイト等の情報をもとにKDDI総研で作成）

8月初めにはデータの利用が少ない人向けに月々40ドルで500MBのデータが使えるプランを追加した。スマホ1台だとトータルで月々80ドルの支払いとなる。一方で月々30ドルでデータを無制限に使っている既存顧客がいることを考えると、40ドルで500MBはかなり割高感がある。

8月25日には端末早期買換オプション「Verizon Edge」を開始した。これは定価の端末代金を24か月の分割払いにし、支払期間が半年以上経過して50%以上支払い済みの場合に、旧端末を無償で下取りに出すことを条件に、残債を支払うことなく新端末に買換えができるというもの。2年契約の縛りがなくなるというメリットはあるが、端末を補助金なしで購入することとなり、なおかつ補助金付きの場合と同額の月額料金を支払うこととなるため、結果的に割高になるとの批判も出ている。

8月にはさらに月々30ドルで6GB、50ドルで8GBまでのデータが使える「Verizon Max」プランも導入された。これは割安だが、実はこのプランはデータ無制限プランを使い続けている既存顧客が「Verizon Edge」付きの「Share Everything Plan」に乗り換える場合にのみ選べるプランで、新規顧客が選べるものではなかった。データ無制限プランの顧客を新プランに移行させるための作戦だ。

5-2 AT&T

AT&TもVerizonと同様のデータシェアプラン「Mobile Share Plan」があるが、従来型のプランも併存し、加入時にどちらでも選べた。6月時点でのAT&Tの料金プランは（図表3）のとおり。

【図表3】 AT&Tの料金プラン

Mobile Share Plan

データ上限	1GB	4GB	6GB	10GB	15GB	20GB
アカウント毎	\$40	\$70	\$90	\$120	\$160	\$200
端末毎	\$45	\$40	\$35	\$30	\$30	\$30

（上限超過後は\$15/GB。テザリングは追加料金なしで利用できるが使ったデータ量は月々の許容量から差し引かれる。）

（従来型料金プラン）

音声プラン

（個人）		（ファミリー）		
分数	月額料金	分数	月額料金 （2回線分）	追加回線 （1回線毎に）
無制限	\$69.99	無制限	\$119.99	\$49.99
900分	\$59.99	2100分	\$109.99	\$9.99
450分	\$39.99	1400分	\$89.99	\$9.99
		700分	\$69.99	\$9.99

SMSプラン

通数	月額料金
無制限（個人）	\$20
無制限（ファミリー）	\$30

データプラン

プラン名	月額料金	上限超過後
DataPlus 300MB	\$20	\$20/300MB
DataPlus 3GB	\$30	\$10/GB
DataPlus 5GB	\$50	\$10/GB

（DataPlus 5GBプランのみテザリングが可能。）

（AT&TのWebサイト等の情報をもとにKDDI総研で作成）

7月下旬には、Mobile Share Planに月々20ドルで300MBと月々50ドルで2GBのプランが追加された。

また7月16日には端末早期買換オプション「AT&T Next」を発表した。これは定価の端末代金を20回の分割払いにし、12か月以上支払い済みの場合に、旧端末を無償で下取りに出すことを条件に、残債を支払うことなく新端末に買換えができるというもの。1年ごとに端末を買い換えたいという需要に対応するものだが、Verizonと同様、端末を補助金なしで購入しながら、補助金付きの場合と同じ月額料金を支払うので割高だとの批判もなされている。

なお、AT&Tは10月25日に従来型料金プランを廃止した。それ以降の新規顧客はMobile Share Planしか選択肢がなくなった。既存顧客は引き続き従来型プランを使い続けることができ、機種変更の際も新プランへの移行を強要されない。

5-3 Sprint

Sprintはデータ無制限が売り物だ。「真の無制限」と謳っているが、上述のようにテザリングには制限がある。テザリング以外のデータは無制限なのでシェアする必要はないが、音声の分数がシェアできるかどうかで、個人プランとシェアプランが用意されていた。6月時点でのSprintの料金プランは（図表4）のとおり。

【図表4】 Sprintの料金プラン

個人プラン

	Everything Data		Simply Everything
月額料金	\$79.99	\$99.99	\$109.99
データ	無制限	無制限	無制限
SMS	無制限	無制限	無制限
音声	450分	900分	無制限

スマートフォンシェアプラン（2回線分）

	Everything Data Share		Simply Everything Share
月額料金	\$149.99	\$189.99	\$209.99
データ	無制限	無制限	無制限
SMS	無制限	無制限	無制限
音声	1500分	3000分	無制限
追加1回線毎に (3-5回線まで)	\$29.99		\$99.99

(テザリングは1回線につき月々29.99ドルの追加料金がかかる。)

(SprintのWebサイト等の情報をもとにKDDI総研で作成)

Sprintは「無制限」戦略をさらに拡充し、7月12日には音声、テキスト、データのすべてについて「生涯無制限」を保証する「Unlimited Guarantee」を導入した。料

金プランも再編成し、音声の上限付きプランを廃止して簡素化した「Unlimited, My Way」と、月々110ドルで音声、テキスト、データが無制限に加え、5GBのテザリングもセットにした「My All-In」を導入した。

新プラン「Unlimited, My Way」では、無制限の音声とテキストをカバーする月額基本料として1回線目が50ドル、2回線目が40ドル、3回線目が30ドル、4回線目以降は1回線につき20ドルが加算される。さらにデータ使用料として、無制限データは1回線につき30ドル、1GBだと1回線につき20ドルがかかる。

従来と比べて随分料金体系が変わったように見えるが、スマホ1台を無制限データで利用する場合は80ドル、スマホ2台の場合は150ドルとなり、従来の音声最低限のプランと変わらない。つまり従来と同じ料金で音声が無制限に利用できるようになったということがメリットだが、音声をあまり使わない人にとっては何も変わらない。さらにスマホ3台の場合は新プランでは210ドルとなり、従来の音声最低限のプランより30ドル高くなるため、音声をあまり使わない人にとっては値上げとなる。

Sprintはまた9月20日には他のキャリアに追随し、端末早期買換オプション「Sprint One Up」を導入した。これは定価の端末代金を24か月の分割払いにし、12回分の支払いが終わった時点で旧端末を無償で下取りに出すことを条件に、残債を支払うことなく新端末に買い換えられるというもの。これも端末を補助金なしで購入することとなるが、VerizonやAT&Tとは異なり、これを利用するとプランの月額料金が15ドル割引されるので比較的良心的だ。

5-4 T-Mobile US

T-Mobileは「アンキャリア」戦略の下、従来の常識を覆す施策を次々に打ち出している。2013年3月に2年契約と端末補助金を廃止した「Simple Choice」を発表し、T-Mobileのショップではこの新プランしか取り扱わないことになった。代理店では従来型の2年契約のClassicプランも引き続き取り扱っていた。4Gデータはすべて無制限と謳っているが、速度制限のあるものもあり、それを超えると極端に遅くなり使いものにならなくなるとの批判もある。

【図表5】 T-Mobileの料金プラン

Simple Choice

月額料金	音声	テキスト	データ
\$50	無制限	無制限	無制限 (500MBまで4G速度)
\$60	無制限	無制限	無制限 (2.5GBまで4G速度)
\$70	無制限	無制限	無制限
\$30	1500分/通		30MB

(\$70プランにはテザリングが500MBまで含まれ、追加は30ドルで2.5GB。)

(従来型のClassicプラン)

個人プラン

月額料金	音声	テキスト	データ
\$60	無制限	無制限	無制限 (500MBまで4G速度)
\$80	無制限	無制限	無制限 (2.5GBまで4G速度)
\$90	無制限	無制限	無制限

ファミリープラン 2回線 (2回線分の料金)

月額料金	音声	テキスト	データ
\$100	無制限	無制限	無制限 (500MBまで4G速度)
\$140	無制限	無制限	無制限 (2.5GBまで4G速度)
\$160	無制限	無制限	無制限

ファミリープラン 3-5回線 (1回線ごとに)

月額料金	音声	テキスト	データ
\$20	無制限	無制限	無制限 (500MBまで4G速度)
\$40	無制限	無制限	無制限 (2.5GBまで4G速度)
\$50	無制限	無制限	無制限

(テザリングは2.5GBにつき\$10。)

(T-MobileのWebサイト等の情報をもとにKDDI総研で作成)

T-Mobileは7月14日、端末早期買換支援オプション「JUMP!」を他のキャリアに先駆けて導入した。これは定価の端末代金を24か月の分割払いにし、端末代金の支払金のほかに月々10ドルの追加料金を支払う。半年経過すれば旧端末を無償で下取りに出すことを条件に、残債を支払うことなく1年に2回まで新端末に買換えができるというもの。「2年は長過ぎる」と訴えて、半年ごとに買換えを勧める。端末の破損、盗難、紛失等に遭った場合の保険としての役割も果たす。

また9月10日にはテザリング料金を改定した。\$70プランにはもともと500MBのテザリングが含まれ、月々2.5GBのテザリングを追加するためには追加で30ドルを支払う必要があったのを20ドルに値下げし、さらに30ドルで4.5GBを追加、40ドルで6.5GBを追加できるようにした。

なお、T-Mobileは11月1日に従来型のClassicプランを廃止した。代理店でも「Simple Choice」しか取り扱わないこととなった。既存のClassicプランの顧客も強制的に新プランに移行させるという思い切った施策を打ち出した。

5-5 月額料金の比較

端末代金は別として、プランの月額料金について、データ量（音声とテキストは無制限）とスマホの数に応じて料金比較をしてみたところ、(図表6)のような結果となった。

なお、テザリングに係る料金はVerizonとAT&Tは月額料金に込み、SprintとT-Mobileはオプションで別料金となることから、比較の前提として4GBまではテザリングなしで使用、6GB以上のプランでは1回線をテザリングで5GB使用すると想定した。端末代金は補助金付きで購入する場合を想定したため、T-Mobileは従来型のClassicプランで比較した。塗りつぶし部分が最安。

【図表6】月額料金比較

スマホ1台の場合

月間データ量	1GB	2GB	4GB	6GB	8GB	10GB
Verizon	\$90	\$100	\$110	\$120	\$130	\$140
AT&T	\$85	\$95	\$110	\$125	\$150	\$150
Sprint	\$80	\$80	\$80	\$110	\$110	\$110
T-Mobile	\$80	\$80	\$90	\$100	\$110	\$110

スマホ2台の場合

月間データ量	1GB	2GB	4GB	6GB	8GB	10GB
Verizon	\$130	\$140	\$150	\$160	\$170	\$180
AT&T	\$130	\$140	\$150	\$160	\$180	\$180
Sprint	\$150	\$150	\$150	\$180	\$180	\$180
T-Mobile	\$140	\$140	\$160	\$160	\$180	\$180

スマホ3台の場合

月間データ量	1GB	2GB	4GB	6GB	8GB	10GB
Verizon	\$170	\$180	\$190	\$200	\$210	\$220
AT&T	\$175	\$185	\$190	\$195	\$210	\$210
Sprint	\$210	\$210	\$210	\$240	\$240	\$240
T-Mobile	\$180	\$180	\$210	\$200	\$230	\$230

(T-Mobileの6GBはテザリングで5GB、それ以外のデータは1GBを使うと想定したため、4GBでテザリングなしの場合よりも安くなる。)

(各社の料金表をもとにKDDI総研で作成)

傾向としては、スマホが1台だとSprintやT-Mobileが安く、スマホが2台以上になるとVerizonやAT&Tが安くなる。スマホが3台の場合、データ量が4GBまでならVerizonが安く、4GB以上になるとAT&Tが安くなるという傾向も見られた。

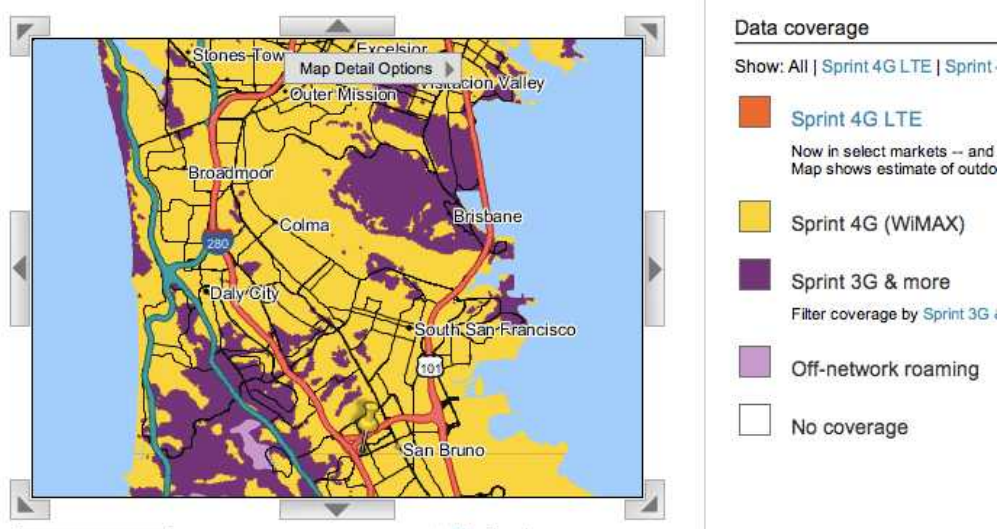
6 キャリア選択の決定的要因

そうこうするうちに、キャリア選択に大きな影響を与える事情の変化が生じた。サンフランシスコは近年家賃の高騰が激しく、今まで住んでいたアパートでは毎年**10%以上の値上げ**が続いていた。今年もまた**10月から10%以上値上げ**するとの通知がきた。これはもう耐えきれない。容赦のない値上げに音を上げ、郊外に退散することにした。引越し先はサンフランシスコ国際空港の西隣にあるサンプルーノという小さな町。アパートがあるのはサンプルーノの中でも北西のはずれで、西側が太平洋、東側はサンフランシスコ湾を見下ろす山稜にある。

サンフランシスコのダウンタウンまでは車で**15分**もあれば行けるところにある。周辺には森林や公園があり緑が多いが、住宅街や学校やショッピングセンターなどもあり、特に過疎地という印象ではない。にもかかわらず携帯サービスのカバレッジが非常に限られているエリアだった。今まで使っていた**Sprint**のスマホに「**4G**」が表示されることは皆無となった。ポケットWi-Fiルータもまったく使えなくなった。

念のため**Sprint**のカバレッジマップを見てみた。引越した場所は（図表7）の左下の紫色のエリアにすっぽり入っている。**4G LTE**はもちろん、**WiMAX**のカバレッジからも見事に外れていた。残念！

【図表7】 Sprintのカバレッジマップ



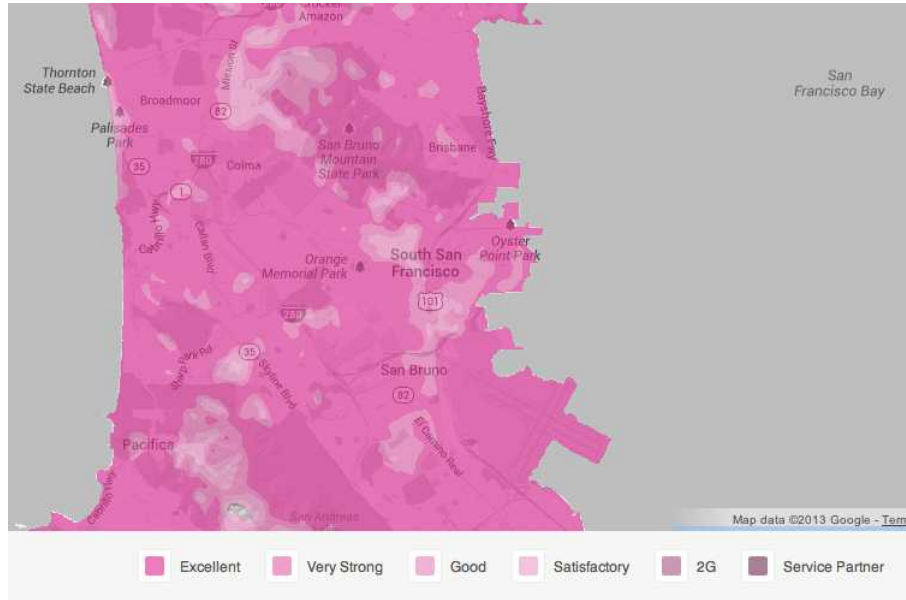
(出典) SprintのWebサイト

T-Mobileのカバレッジマップ（図表8）の表示は**3G**か**4G**かという区別はなく、「**Excellent**」、「**Very Strong**」、「**Good**」、「**Satisfactory**」に区分されており、それぞれが非常に似かよったピンク系の色なのでわかりにくい。

ほとんど全部「**Excellent**」で塗りつぶされているようにも見える。しかも電波の強さだけを示しているようだ。それも重要な情報ではあるが、**3G**か**4G**かの区別も重要な情報だと思うのだが。おそらくT-MobileとしてはHSPA+の「**4G**」で既に全国をカバーし、速度的にもLTEと遜色はないので、「**4G LTE**」をあえて分けて表示する必

要はないとの考えによるものだろう。しかしせっかくLTE対応の最新スマホを購入するからには、ネットワークもLTEが使えるところを選びたい。

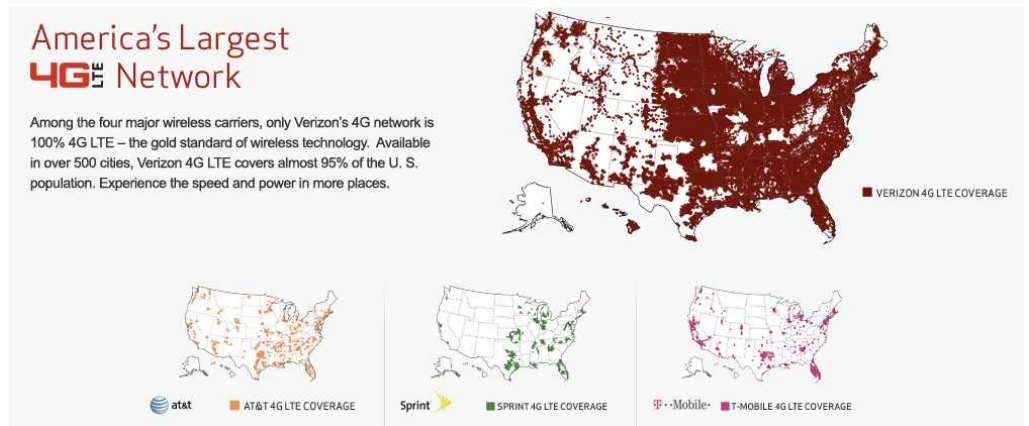
【図表8】 T-Mobileのカバレッジマップ



(出典) T-MobileのWebサイト

ちなみに、Verizonが最近流しているテレビCMでは、各社の4G LTEのカバレッジマップを一般の人に見せて、これは何かと問う。全部色塗りされると米国の地図になるのだが、4G LTEの提供地域だけを色塗りしたのを見せられると、T-MobileやSprintの場合は誰もこれが米国だとはわからない。AT&Tでやっと、「米国っぽい」と気がつく人が出てくる。Verizonのマップを見せると誰もが米国だとわかるというもの。Verizonは同様の比較図(図表9)をWebサイトにも載せている。

【図表9】 Verizonの4社カバレッジ比較図



(出典) VerizonのWebサイト

T-Mobileは一応「4G LTEで全米2億人以上をカバーしている」と豪語している。2億人と言えば全人口の3分の2。主要都市はほぼすべてカバーしているような印象を

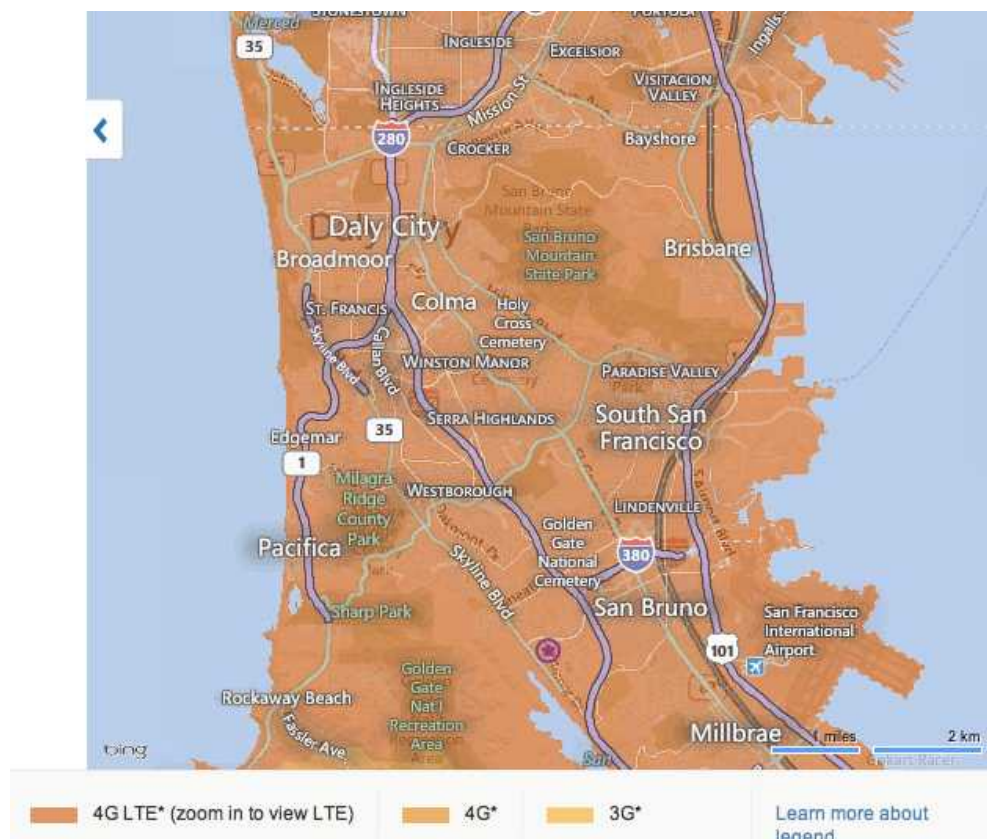
受ける。ところが、Verizonの比較マップによるとT-Mobileの4G LTE提供地域は非常に限定的だ。主要都市でもカバーできていないところもありそうだから、まして小さな町のはずれにある我が地域がカバーされているかどうかは非常に疑わしい。

T-MobileのWebサイトでは4G LTEの提供都市のリストも公表されていた。念のため確認してみた。案の定、サンブルーノ市は提供都市に入っていなかった。2億人の中に入っていなかったとは、残念！

こうなるとAT&TとVerizonしか選択肢がない。AT&Tはかなり期待できそうだ。サンフランシスコはもともとAT&Tの縄張りだ。この地域ではAT&Tが4社のなかで一番カバレッジが広くてもおかしくない。

AT&Tのカバレッジマップ(図表10)では4G LTEと4Gと3Gが色分けされているが、これもT-Mobileと同様、非常に似かよった色なのでわかりにくい。4G LTEはズームインするようにとの指示があるので、ズームインして見ても4G LTEと4Gの違いがよくわからない。どうしてこんなにわかりにくい地図にしているのだろうか。

【図表10】 AT&Tのカバレッジマップ



(出典) AT&TのWebサイト

AT&Tがこの地域でLTEを提供していないわけがないとの先入観が働く。それにAT&Tだけが販売しているLumia 1020がどうしても気になった。AT&TのWebサイトを見ると本体価格が249.99ドルから199.99ドルに値下がりしていた。今までiPhoneとAndroidは使っていたので、今度はWindows Phoneに挑戦してみたいという衝動に

駆り立てられた。

思い切ってAT&TのWebサイトで申込みをしてみた。端末の選択で「Lumia 1020」を選んでカートに入れる。プランの選択で「2GB」を選ぶ。新規顧客か既存顧客かの選択で「新規」を選び、その後郵便番号を入力する画面になる。

ところが、郵便番号を入れるとカートが空になり、端末を選ぶ画面に逆戻りしてしまう。何度やっても結果は同じ。選んだ端末をいろいろ変えてみたが同じ。前に住んでいた住所の郵便番号を入れると問題なく次に進むことができた。郵便番号の入力画面（図表11）をよくみると、選んだ端末やプランは地域によっては提供できない場合があり、そのときはカートが空になる、との説明があった。提供地域でないため郵便番号ではじかれてしまったようだ。これはショックだった。

【図表11】郵便番号入力画面

（出典）AT&TのWebサイト

LTEは提供していなくても、HSPA+の「4G」や3Gは提供しているだろうから、それでもいいという人には売ってくれてもよさそうなものだが、郵便番号だけで一律にふるい落とししてしまうとは、大胆な選別方法だ。無理に契約させて後々声高に騒がれるよりは、あらかじめふるい落としの方がまし、ということかもしれない。

カバレッジマップ上ではサービスを提供しているように見えても実際には提供していないことがあるとすれば、カバレッジマップは虚偽表示ではないか。AT&Tに対する信頼感が急に薄れ、購買意欲もそがれてしまった。

7 スマホを購入する

最後の砦としてVerizonのカバレッジマップ（図表12）を確認すると、アパートのある地域一帯が4G LTEの茶色にしっかりと塗り潰されていた。

【図表12】 Verizonのカバレッジマップ



(出典) VerizonのWebサイト

さすがはVerizon！こんな町にまでよくぞ4G LTEを通してくれた。早速Verizonのスマホを選ぼうとWebサイトを見てみると、iPhone 5s/5cがトップページに掲載されていた。Galaxy S4も最も人気のあるスマホとして掲載されていた。今回は家族で合計3台を買い換えるので、それぞれ違う機種を選んで使い勝手などを比較してみよう、と家族会議で提案したら、息子がiPhone 5sを、妻がiPhone 5cを即座に選んだ。筆者はGalaxy S4を購入することにした。少し雑な機種選定になってしまったが、人気の高い機種なら間違いはないだろうとの直感に従った。

7-1 1台目はGalaxy S4

Galaxy S4の本体価格はVerizonのWebサイトでは2年契約で249.99ドル。他のキャリアは199.99ドルで販売しているのに、Verizonだけがなぜか50ドル高い。以前は50ドルのリベートがもらえるプロモーションをしていたので実質199.99ドルになっていたのだが、今はやっていないようだ。Best BuyではVerizonの回線でも199.99ドル。さらに今なら50ドルのギフトカードがもらえるプロモーションをしているので実質149.99ドル。これが一番安いかもしれないと思っていたところ、RadioShackのオンライン販売で119.99ドルという表示を見つけた。しかも純正フリップケース付き。これは安い。何かの間違いではないか。「199.99」を間違えて「119.99」と打ち込むことはありがた。たとえ間違いだったとしても、これで表示している以上、今申し込んでしまえばこれで買えるだろう。

間違いに気づかないうちに速やかにRadioShackのオンラインサイトで申込みをすることにした。本体の色は渋くて落ち着いた筆者のイメージに合うブラックミストを選択。Verizonの新規契約にし、電話番号はSprintで使っていたものを移行することにした。料金プランはShare Everything Planの2GBを選択。申込み手続きは特に問題なく完了した。2営業日で届く予定だという。RadioShackとVerizonの両方から確認メールが来た。

待ちに待った2営業日目、予定どおりFedExの箱が届いた。FedExの配達の人には玄関の呼び鈴を押して、箱をドアの前に置き、こちらがドアを開けるのを確認せずに立ち去ってしまう。もし留守の場合はドアの前に置きっぱなしになる。ときどきそのような光景を見かけるが、大丈夫なのかと心配になる。

外箱を開けると木製風の厚紙のしっかりした箱が出てきた。早速箱を開けてみた。待望のGalaxy S4が登場。何と、フリップカバーが派手なオレンジ色！ 少し当惑する。筆者のイメージには合わないが、サンフランシスコ・ジャイアンツのチームカラーなので、まあいいかと納得。このフリップカバーは本体の裏カバーを取り外して、その代わりに取り付ける。そのためオリジナルのブラックミストの裏カバーは文字どおり「箱入り」となった。

【図表13】 Galaxy S4の本体と木製風の箱



(筆者撮影)

以前使っていた番号を移行するということにして申し込んだところ、届いた端末は既に仮の番号でアクティベートされていた。そのままだでも使える状態だったが、これからSprintで使っていた番号を移行する操作を自分でやらなければならない。移行の手順はわかりやすく説明書に書いてあるので誰でも簡単にできる、との説明書きもあった。ところが移行の操作はスムーズには行かなかった。

番号の移行方法はVerizonのWebサイトにも説明があった。こちらの方がわかりやすそうだったので、それに従って移行操作をやってみた。それによると、まず端末にSIMを入れて（既に入っていた）、端末のスイッチを入れて、画面表示に従って進みなさいとある。Verizon Wirelessのアカウント番号と暗証番号を手元に用意して、番号移行の受付電話番号に電話しなさいとある。

そこでつまづいた。Verizonのアカウント番号と暗証番号がわからない。これは同封の書類のどこかに書いてあるのだろうと書類を丹念に調べたが、どこにも書いていない。申込みのときに暗証番号を設定した覚えもない。

これは一旦VerizonのWebサイトでアカウントの作成をしないといけないのではないかと考え、Verizonのサイトへ行ってみた。アカウント作成を選び、仮の電話番号を入れて、IDと暗証番号を設定。何とかアカウントが作成できた。そのアカウント番号と暗証番号を控えたメモを手元に用意し、いよいよ番号移行の受付に電話した。

自動音声で、電話番号の入力を促される。ここでは説明書にあったとおり仮の電話番号を入力する。次にソーシャルセキュリティナンバーの下4桁を入れ、それから元々使っていた電話番号を入れる。そして、その電話番号のアカウント番号を入れるよう促された。ここでまたつまづいた。元々使っていた電話番号はSprintのものだから、Sprintのアカウント番号を入れないといけない。用意していたのはVerizonのアカウント番号だ。Webサイトで確認した番号移行の手順は、どうもVerizonのアカウント内で電話番号を移行するためのものだったようだ。今回はSprintのアカウントからVerizonのアカウントに番号を移行するので、Sprintのアカウント番号が必要だったのだ。どこかに書いたものがないかと、電話をつないだまま、溜まっていた郵便物などを探す。Sprintからの請求書には書いてあるはずだが、だいぶ前にオンライン請求に変更済みで、最近紙では送られて来ていない。Sprintから時々来るメールにはアカウント番号の下4桁が書いてあったが、フルの番号は書いていない。契約時の書類がどこかにあるはずだが、どこにあるのかわからない。

そうこうするうちに電話が転送され、オペレータが出てきた。どうしたのか、と言うので、番号移行手続きの途中で、元のアカウント番号がわからないので調べているところだと事情を説明する。アカウント番号がわかったらまたかけ直すようにと言われ、かけ直す際の電話番号をくれた。

何とかSprintの加入時の書類を探し出してアカウント番号がわかった。また番号移行の受付に電話して、移行手続きを最初からやり直してみた。すると、Sprintで使っていた電話番号を入力した時点で、この番号は移行不能とのアナウンスがあった。またオペレータが出てきた。事情を説明すると、番号移行手続きで電話するのは何回目かと聞かれた。2回目だと答えた。1回目の移行手続きが未完了なので古い電話番号が宙に浮いたまま移行できない状態になっているのだという。別の受付につながるので、そこでやってみるよと言われ、電話を転送された。おそらく前回の受付の際にもらったかけ直し用の番号にかけるべきだったのだろう。

転送された先でまた仮の電話番号とソーシャルセキュリティナンバーの下4桁と元々使っていた電話番号を入れると、元のアカウント番号を入れるよう促され、Sprintのアカウント番号を入れたら、無事完了した。Sprintの回線は自動的に解約になるそうなので、それ以上の手続きは不要だという。スムーズにできればどうってことはない手続きだったのだが、何度かつまづいただけに、無事完了したという感激はひとしおだ。

7-2 2台目はiPhone 5c

2台目は妻のiPhone 5cを選ぶ。これは発売されたばかりだったが、大手スーパーや家電量販店などでは既に割引販売をしているとの情報を得ていた。16GBモデルは2年契約で通常価格が99.99ドル。Best Buyでは50ドルのギフトカードがもらえてすぐに使えるので半額で購入できるというプロモーションをしていた。それに追随してRadioShackがiPhone 5cを50ドル引きで販売するキャンペーンを始めた。これは店頭販売のみだ。近所にRadioShackのお店があったので、早速行ってみた。

セラモンテショッピングセンターの中にあるRadioShackの店舗（図表14）。入口のドアに「iPhone 5cは50ドル」との手書きの小さなメモが貼られていただけで、他に大々的にキャンペーンを知らせるような広告などはなかった。これではキャンペーンのことを知らない人も多いのではないかと思った。

【図表14】セラモンテショッピングセンター内のRadioShack



（左下の四角い張り紙が「iPhone 5cが\$50」の手書きメモ。） （筆者撮影）

平日の午後早めの時間だったためか、店内は閑散としており、客は1人、それに対応しているスタッフが2人と別に商品を整理しているスタッフが1人いるだけ。

商品を整理していたスタッフに、iPhone 5cの在庫はあるかと聞いてみた。「キャリアは」と聞かれたので「Verizon」と答えると、1台しかないという。色はブルーしかなかった。妻はピンクを希望していた。他のお店にないか、スタッフが調べてくれた。周辺のお店にはなかったが、サンフランシスコのダウンタウンまで行けば、いくつかの店舗にピンクがあることがわかった。申込みはこの店でして、受取りだけダウンタウンのお店でもすることも可能だという。どちらにしてもダウンタウンに行かないといけないところが煩わしい。どうするか、少し考えることにして一旦店を出た。

このショッピングセンターにはBest Buyも入っている。50ドル引きでピンクのiPhone 5cが買えるならどこでもいいので、Best Buyにも行ってみた。こちらも閑散

としていた。2組の客を2人のスタッフがそれぞれ対応していたが、その他には客やスタッフはいなかった。しばらく待っていると、スタッフの1人の手が空いた。

「iPhone 5cの在庫はありますか？」

「あるわよ。たくさん。キャリアは？」

「Verizonのピンクを」

「はい、どうぞ。ピンク以外にもブルー、イエロー、ホワイトもあるわ」と言って、4色を出してくれた。グリーンだけはなかったようだ。

「やったー、ピンクがあったー」と、喜びながらひとつひとつ手に取って色を見比べた。

「ピンクもいいけど、イエローもいいなー」と妻。

「じゃあイエローにしよう。イエローくださいっ！」

「オーケー。値段は99ドルよ」

「50ドル引きになるプロモーションをしていると聞いたけど」

「それは月曜に終わったわ」

(ガーン！)

そういえば、Best Buyのプロモーションは月曜までだと何かに書いてあったのを思い出した。考え直すことにして、店を出た。

また先ほどのRadioShackに戻った。スタッフが4人に増えていた。さきほどピンクのiPhone 5cが近所のお店にあるかを調べてもらった者だが、イエローがあるかも調べてもらえるかと聞いてみた。マネージャらしき恰幅のいいスタッフが調べるまでもなく、「イエローはピンク以上に品薄だ。近所のお店にはどこにもないよ」と即答する。「色で一番人気はイエロー、キャリアではVerizon。次がSprint、AT&Tの順だ。AT&Tなら在庫はたくさんあるんだが」とAT&Tの売れ行きの悪さを嘆く。

何でイエローがそんなに人気があるのかと聞いてみたら、「それはマクドナルドのロゴの色だからさ」とマネージャらしき人が答えた。スタッフ全員が笑った。

そういうわけでブルーをこの場で持ち帰るか、ピンクを申し込んでダウントウンに受取りに行くかの選択になった。そばにいた中堅のスタッフが、「ブルーでは駄目なのか」と言うので、「いやブルーも検討している」と答えると、そのスタッフが奥へ行ってブルーを持って来てくれた。手に取ってみると結構悪くない。それにどうせカバーをするのだから、本体の色はあまり関係ない。

「決めた。ブルーくださいっ！」

念のため値段を確認すると、50ドル割引で49.99ドルだという。店頭でのアクティ

バージョンと番号移行の作業は中堅スタッフがすべてやってくれたので楽だった。少し時間はかかったが、ただ待っているだけで良かった。

待っている間に他の客がまったくいなくなり、ウチだけになった。マネージャらしき人が、「この客が終わったら店を閉めるぞー」と号令をかけた。まだ午後3時少し前だったが、今日はこれから店内のレイアウト変更をするそうだ。レイアウト変更なんか営業時間終了後にやればいいのに、営業時間中にやるとはアメリカらしい。

今回のアクティベーション作業は、作ったばかりのVerizonのShare Everything Planのアカウントに1回線を追加して、Sprintのファミリープランのアカウントのうちの1回線の電話番号をVerizonに移行するものだ。少し複雑そうな手続きなので、間違いなくやってくれるかどうか、多少不安だった。「できました」とスタッフに言われて、詳細を画面上で確認してみたら、本当にきちんとできていた。Sprintの1回線は自動的に解約になるそうだ。

7-3 3台目はiPhone 5s

3台目は息子のiPhone 5sを選ぶ。これはどこもほとんど品切れ状態だから、即日入手は難しいだろうし、まして安く買うことは期待できないだろうと覚悟した。

16GBの本体価格は2年契約だとキャリアのショップでも量販店でもたいがい199.99ドル。Appleストアでは199.00ドルと、なぜか99セント安い。大手スーパーのWalmartでは10ドル引きの189.99ドルで販売しているとの情報があったが、近くにWalmartの店舗はない。

その時、Appleストアには下取り制度があることを思い出した。古いiPhoneを持って行けばその場で査定して、購入価格から割引してくれる。これは店舗でのみの取扱いで、オンラインではできないようだった。最後の手段としては古いiPhoneを別の買取業者に買い取ってもらうという手もあるので、とりあえずオンラインで注文してみることにした。

AppleのWebサイトで、「今すぐ購入」ボタンを押すと機種選択画面になる。どの機種も「2-3週間で発送」になっていた。色はグレー、容量は16GB、キャリアはVerizonを選ぶ。やはり「2-3週間で発送」との表示が画面右側にも小さく出た。その下に、「即日受け取れる店を探す」というリンクがあった。これをクリックして郵便番号を入れると、近所のAppleストアが近い順番に表示され、即日受取可能かどうかはわかるのだが、すべて「不可能」と表示されていた。色を変えて確認してみた。グレーとゴールドはすべて「不可能」だったが、シルバーは1店舗のみ「可能」と表示された。バーリングゲーム店で、それほど遠くない。

すぐには買えるなら色は何でもいいと息子も納得し、シルバーをオンラインで申込み、バーリングゲーム店で即日受け取ることにした。夕方、Appleストアのバーリングゲーム店に出かけた。iPhoneの受取りに来た旨をスタッフに告げると、すぐにテーブルの片隅で手続きをしてくれた。奥から別のスタッフが実物を持って来てくれた。

端末のアクティベーションをその場でやってもらうことにした。端末代金の199ドルはオンラインで申込みをしたときにクレジットカードで支払済みだ。古いiPhoneを下取りに出したいが今からできるかと聞いてみた。スタッフは「オーケー」と即答してくれたが、どうやるのかがわからなかったらしく、他のスタッフに相談しながらやってくれた。息子が今まで使っていたのはiPhone 4S。下取り価格は60ドルから80ドルくらいかもしれないとスタッフに言われたが、その場でオンライン査定をしてもらうと、151ドル。あらかじめ調べておいた買取金額の相場より高かったので、これで了承した。この金額をクレジットカードに返金してもらえることになった。無事アクティベーションが完了し、シルバーのiPhone 5sを手にして店を出た。

8 おわりに

今回は引越しのため、サンフランシスコ「周辺」でスマホを買い換える結果となったが、ほとんどサンフランシスコなのに少し郊外に出ただけでカバレッジはがらりと変わり、キャリアを選択できる条件はまったく違ってることがわかった。

Sprintの3回線を立て続けに解約したため、Sprintもいったい何事かと思ったのだろう。CEOのDan Hasse氏の名前でメールが来た。解約の理由を教えてくださいとある。引っ越して4Gが使えなくなったので解約したと伝えた。担当から連絡させると返事が来た。次に担当者から、電話番号やアカウント番号やその他の連絡先情報がわからないので教えてくださいとのメールが来た。そもそもCEO名でメールが来たときに、そのような情報は把握できていなかったのだろうかという疑問が湧く。電話が来ては煩わしいので住所だけ伝え、この場所で4Gサービスが早期に使えるようになることを期待すると書いて返事しておいた。

今回はキャリア選択において、まずはカバレッジが最重要だということを再認識させられた。カバレッジに入っていないければ、いくら料金を比較しても、いくら営業努力をしてくれても、何の意味もない。この点、Sprintにはまだまだ努力の余地があると感じた。

AT&Tは、Webサイトのカバレッジマップ上ではサービスを提供しているように見えたのだが、郵便番号を入れたら拒絶されたのがショックだった。サービスを提供していない地域は、カバレッジマップでもそれがわかるように表示してほしいものだ。郵便番号で拒否されたのはもしかしたらサイトの不具合かもしれないが、そうだとすればますますサービスやシステムの信頼性が疑われる。せっかく購入しようという気になったのに、郵便番号を入れたらいきなりカートを空にして初期画面に戻ってしまうというやり方は少々乱暴だ。購入意欲を削がれてしまったことは言うまでもない。

T-MobileもLTEを提供していなかったのが残念だ。LTEでなくても、「4G」(HSPA+)で十分な速度が出ることは期待できるが、4G LTEで全米2億人以上をカバーしていると豪語していたので、おそらくLTEが使えるだろうと期待した。その2億人に含まれていなかったのが残念だ。カバレッジマップでLTEの提供地域を明示していないのも、何となくごまかそうとしているような感じを受けた。「アンキャリア」として、

これまでの常識にとらわれない新施策を次々に打ち出している姿勢は評価できる。今後もあっと驚くような施策をどんどん展開してもらいたいが、同時にLTEの提供地域拡大という地味な努力も継続してくれることを期待したい。

今回購入したVerizonの3台のスマホは、いずれも画面上に「4G LTE」と表示されており、間違いなくLTEの提供地域に入っているようだ。さすがVerizon、4G LTEのカバレッジの広さを他社との差別化要素として大々的に宣伝しているだけある。

スマホの使い勝手はこれから徐々に判明することになると思うが、とりあえず電話がすぐに出られないという問題は解消した。ただ一点、iPhone 5s/5cに比べてGalaxy S4の画面が直射日光下では暗くて見づらいということがわかった。これは今まで使っていたスマホと同じ問題だ。最新の人気機種なのでそのような問題は既に解決されているだろうと思いついていた。画面の輝度調節で多少は改善できたが、iPhone 5s/5cの方がずっと見やすいのには驚いた。

料金的にはスマホが3台になった時点で料金プランをShare Everything Planの2GBから4GBに変更したので、月々190ドルの支払いとなった。それでもまだSprintを使っていたときよりは安い。料金比較の結果に照らしても他社より高くないはずだ。ただ毎月4GBというのが、家族3人で足りるのかが心配だ。

ところで、スマホの画面上に「4G LTE」の表示は出るのが、アンテナマークの本数が少ない。いつもだいたい1本か2本しか立たない。電波が弱いのではないかと不安になる。速度は大丈夫かと念のため計測してみると、下りが3.58Mbps、上りが80kbps。これはLTEにしては遅い。特に上りが遅すぎる。

別の日にも測ってみたが、あまり変わらないどころかさらに遅くなり、下りが1Mbps程度かそれ以下になることもあった。何度か速度を測り直していると、表示が「3G」になることもあった。その時に測った速度は、下りが330kbps、上りが170kbps。これならT-Mobileの「4G」の方が速かったのでは、との後悔の念が頭をよぎる。

やはり米国ではどのキャリアでも満足なサービスは期待できないのか。もう少し様子を見ることにする。

【執筆者プロフィール】

氏名：高橋 陽一（たかはし よういち）

経歴：KDD（現KDDI）にて海外通信事情の調査、サービス企画、海外の通信事業者との交渉、法人営業等を担当した後、1995年よりカリフォルニア支社（ロサンゼルス、サンフランシスコ）勤務。1999年より外資系通信事業者の日本オフィスに勤務。2006年より日本のIT企業にて米国現地法人の設立、運営等を担当。2010年4月よりKDDI総研にて特別研究員として、海外の通信市場・政策動向の調査分析に従事。2011年9月よりサンフランシスコ在住。